



理振協会会報

編集：(公社)日本理科教育振興協会 広報委員会
制作：株式会社 太洋堂



公益社団法人 日本理科教育振興協会
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-28
TEL: 03-3294-0715 FAX: 03-3294-0716
URL: <http://www.japse.or.jp>

CONTENTS

■ 新年のごあいさつ (p1)

- 日本理科教育学会第69回全国大会を終えて (p5)
- 全小理全国大会を終えて (p5)
- 第7回科学の甲子園ジュニアが開催されました (p5)

■ 令和2年度 理科教育予算増に向けた活動 (p6)

- 令和2年度政府予算案が発表されました (p6)

- 令和元年度 理科教育設備整備費等補助金事業・台帳説明会開催 (p6)

- 令和元年度 理科教育設備整備費等補助金事業取組のための個別相談会開催 (p7)

- 安全安心ドキュメントが揃いました (p7)

- 令和元年度 東日本大震災復興教育支援事業 (p7)

- 令和元年度 復興支援事業報告会開催予定 (p7)



本年も「理科の授業は理科室で!!」運動を展開してまいります

公益社団法人 日本理科教育振興協会

会長 大久保 昇



新年 明けましておめでとうございます。

昨年は、旭化成(株)名誉フェローの吉野彰先生がノーベル化学賞を受賞され、毎年続く日本人の受賞と、日本人が科学技術の領域で世界に大きな貢献ができていたことを大変喜ばしく思います。

小学校4年の時に担任の先生に紹介された本、マイケル・ファラデーの『ロウソクの科学』を読み、吉野先生は科学に興味を持たれたそうです。小学校の理科で、人生で初めて科学に触れ、それがその後の人生まで決定づけるほどの、興味を引き出したということ。そしてその興味が衰えることなく続き科学者の道を目指すことになるのは、まさに理科教育の重要性を物語ることであります。

理科教育は、次世代の児童生徒全員にとっても、科学に触れる最初的一步として大事な分野なのです。吉野先生は「研究の醍醐味は実験である。特に予想外の結果が出た時が面白い」とおっしゃられています。観察・実験授業は教科書通りにならない予想外の結果についての議論ができる貴重な授業です。科学者だけでなく会社員、工場や商店で働く人、公務員、政治家、すべての人にとって貴重な体験になることでしょ。社会は正解のない授業の毎日だからです。

さていよいよ本年、小学校から新しい学習指導要領が施行されます。これまでもこれからも、理科教育の基本は観察・実験に尽きます。児童生徒達が観察・実験を通して、多くの感動と好奇心と疑問の経験から、科学的な見方、考える力が育まれていくものと考えます。本年度からは、さらにより一層、初等中等学校において、観察・実験が実施されることを期待いたします。そのためには、理科教育環境整備充実が重大な課題となります。

しかしながら新学習指導要領では「理科教育の授業を実践する上で環境整備に配慮すること」の記述が随所に書き込まれました。依然として、全国のしかも少数ではない自治体、私立学校において、理科教育環境の整備が図れていないからです。協会の実施した過去9年間の全国調査においても、観察実験機器の不足等の理由で、教科書掲載の実験を行うことすら支障をきたしているという回答した学校が多数あります。また、観察実験を行う場所、理科室の不足は中学校で特に顕著であります。

さらには自治体間、学校間の格差が大きく拡大しているのです。国の補助事業を毎年、もしくは二年に一度以上受けている自治体と5年以上一度も受けていない自治体とに大きく二極化していることが判明しました。聞き取り調査とあわせて推測すると、財政的な理由等で申請業務から離れると申請方法すらわからなくなり、再開ができない自治体が多数にのぼることも明らかになっております。この国庫補助事業をより一層普及させるために、協会では、都道府県教育委員会に働きかけ、その都道府県の市町村や学校、私立学校に、申請手続きと理科教育設備整備台帳作成の講習会を精力的に本年は実施していきたいと考えます。

全国すべての学校の理科室が楽しく科学に興味関心が深まる場になるよう、本年はより一層理科教育環境向上に鋭意努力していく所存です。本年もご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

謹 賀 新 年

副会長 中村 友香

会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。

元号が改まって、初めてのお正月となりました。

令和2年は、新学習指導要領が小学校より実施され、東京オリンピックが開催され、はやぶさ2が帰還する予定となっていることなどが象徴するように、始まりと出会いの年となると個人的には思っております。

昨今何かと話題になっている国連が定める持続可能な開発目標（SDGs）には17のゴールがあり、教育は第4のゴールとして設定されております。また、その他のゴールも理科教育の素地なくば解決できないことが多く、教育に対する期待と責任は、ますます高まることと存じます。

小・中・高等学校ともに主体的・対話的で深い学びを目指し、充実した理科の授業が日本全国で実施できるように、会員の皆様と共に力を合わせて取り組んでまいります。

本年も、よろしくお願い申し上げます。



副会長 小林 啓介

会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。

昨年大きな災害が日本列島を襲いました。「命を守る行動を」と何度もアナウンサーが叫ぶ度に、災害がどうぞ小さく終わって欲しいと願う一方、「命を守る方法」を「知る」ことの大切さを感じました。理科教育では自然の力を学ぶ単元があり、命を守る行動に繋がる理科教育の重要性が益々増しています。

さて、今年はいよいよ小学校で新しい教科書が始まります。資質・能力を育成し、知識の理解の質を更に高め、豊かな心や健やかな体を育成し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した、新しい学習指導要領での授業が始まると思うとわくわく致します。学校や地域によっては既に新しい理科実験の準備をされているところもあるようですが、本格的には今年。中でもプログラミング教育においては、これまでの理科の授業とは少し性格が異なるもので、子供たちの理解を促す為に、授業をされる先生方はハード面とソフト面の両方で新たな準備が必要になります。我々日本の理科教育のサポーターとしては、全ての学校で判りやすい授業を行って頂けるように、微力ながらお手伝いをさせて頂きたいと願っています。



副会長 西松 正文

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと存じます。

さて、昨年は新天皇がご即位され、「平成」から「令和」へと年号が移り変わるなど、おめでたい行事が続きました。まさに歴史の転換点にあって、これからの未来が幸多くならんことを国民全員が祈りを捧げました。

さて、令和の時代になり、AI、ドローン、自動運転などが次々と現実のものとなりつつあり、世の中が加速的に変化しています。文科省の科学技術予測調査によりますと、20年以内には「完全な自動運転」や「月や火星での宇宙基地の建設」が実現することを予測しています。

いよいよ本年より始まる新しい学習指導要領では、次世代を生きる子供たちの必要な知識の習得と実験や体験を通じ、実感を持った理解を促すことが求められています。自ら答えのない問題にどう立ち向かうか、また、プログラミング教育や防災教育など、時代に合った学び方や学習内容が盛り込まれます。

我々、理振協会は「理科の授業は理科室で！」をスローガンに、引続き、実験観察を重視し、科学本来の面白さや楽しさを十分に体験できる環境づくりを応援しています。本年も、理科室の充実、予算拡充などの要望活動に力を入れてまいります。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。



副会長 西原 克年

会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

昨年6月から理振協会の副会長の任に就き、10月に岩手県の山田南小学校に出向いて顕微鏡を使った「復興支援授業」の現場にも参加するなかで、本協会の仕事の重大性がだんだんと実感となりつつあります。

私は昔から、“Make Haste Slowly”（ゆっくり急げ）という言葉大切にしてきました。対応する日本語のことわざは、「急がばまわれ」のようですが、少し語感が違うように思います。まわるとか、あえて回り道をする、という感じは全然ないのです。

この言葉には、それぞれの局面や時に、どうしてもやっておかなければいけないこと（又は機を失うとやれない、やる値打ちがなくなること）を、気を入れてじっくりコツコツやる、ものごとを遂げるには結局はそれが一番早い、という雰囲気があります。“Make Haste Slowly”には、1日、1月、1年、5年、10年、30年後に、今やっていることが生きて（効いて）くるであろうことを思い、今からもう始めていますという感じがあります。

この言葉は理振協会の役割と活動にも通じるように思います。子どもたちが、多感な旬の時季に、自然や動植物に親しみ、学校での実験・観察を通じて好奇の芽を自ら培い、さらに科学の心として育てていく、そういう豊かな理科教育の環境を作っていくことは、我々大人が今まさに「どうしてもやっておかなければいけないこと」だと強く思います。



謹 賀 新 年

文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 課長 滝波 泰

新年あけましておめでとうございます。

貴協会におかれましては、日頃から我が国の理科教育の充実・発展のために御尽力いただいておりますことに心から感謝申し上げます。

近年、人口減少や就業構造の急速な変化、グローバル化、AIなどの技術革新による「ソサエティ5.0」の到来など大きな社会変化を見据えて、子供たちが人間ならではの強みを発揮し、自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成することが求められております。

このため、文部科学省では学習指導要領を改訂し、これからの時代に求められる資質・能力を明確にするとともに、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業の改善等を通して、子供たちの理解の質を高めることなどを目指しています。

特に理科教育においては、理科で育成を目指す資質・能力を育む観点から、自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもって観察、実験などをを行い、その結果を分析して解釈するなどの科学的に探究する学習を充実しています。また、将来、知の創出をもたらすことができる創造性豊かな人材の育成を目指し、高等学校の新たな探究的科目として、「理数探究基礎」及び「理数探究」を新設することとしています。

文部科学省としても、新学習指導要領の内容を着実に実施し、児童生徒の確かな学力を育むために、その趣旨の徹底や理科教育等に必要な設備の確実な整備などの施策を講じてまいります。本年も、皆様のご理解と御協力をお願いいたします。



積み重ねを大切にしながらどのような授業を構築していったらいいのか、試行錯誤を繰り返していくことが今まで以上に大切になってくると感じています。ベテランと若手が協働でそれぞれの視点を生かしながら授業改善に取り組みたらより良いアイデアが生まれてくるかもしれません。

アインシュタインの言葉に「Education is what remains after one has forgotten everything they learned in school.」「教育とは、学校で習ったすべてのことを忘れてしまった後に、自分の中にあるものである。」とありますが、未来を歩む児童・生徒たちに何が残せるのかを皆さんと一緒に考えていければと思います。

貴協会には、引き続きのご支援・ご協力をお願い申し上げますとともに、今後ますますのご発展を祈念いたします。

文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 遠山 一郎

新年あけましておめでとうございます。

貴協会におかれましては、日頃から理科教育の充実と発展のために御尽力いただき、感謝申し上げます。

新学習指導要領においては、学習指導要領の目標と内容が整理されたことにより、「生徒にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図る、いわゆる指導と評価の一体化が実現されやすくなることが期待されます。

昨年4月から、新中学校学習指導要領において第1学年から移行措置が実施されています。理科は、自然の事物・現象に関わり、探究の過程を通して、科学的に探究する力と態度を養う教科です。そのため、理科の授業で使うことのできる計量器や実験器具などを新たに開発していたり、先生方にはそれらを効果的に活用して、理科で育成を目指す資質・能力を育てていただけたらと思います。

平成の時代、日本の国際的な存在感が低下したと言われていました。令和の時代に向けて、中学校及び高等学校の理科で育成を目指す資質・能力を起点として新たな技術革新が起り、日本の未来が拓かれていくことを期待します。このためにも、貴協会には、引き続きの御支援と御協力をお願い申し上げますとともに、今後の益々の発展を祈念いたします。



文部科学省 初等中等教育局 視学官 藤枝 秀樹

新年あけましておめでとうございます。

貴協会におかれましては、日頃より理科教育の発展と充実のためにご尽力いただき、心より感謝申し上げます。

昨年12月にOECDが実施した生徒の学習到達度調査(PISA2018)の結果が公表されました。ここでは、「日本の子供たちの科学的リテラシーは、OECD加盟国中2位であり、引き続き世界トップレベルである。」ということが分かりました。これは、ひとえに学校現場の先生方の日頃の頑張りの賜物であると思っています。

さて、いよいよ今年4月から小学校では新学習指導要領に基づく教育課程がスタートします。中学校では来年度から、高等学校でも再来年度から新課程が始まります。新学習指導要領における理科の大きなポイントは「探究的な学習の一層の充実」です。特に、「観察・実験」などを通して、児童生徒が「科学的に探究すること」が重要です。全国の理科の先生方を通して、児童生徒の科学する心に火をつけるために、私自身も新学習指導要領のより一層の周知・徹底を図ってまいりたいと思います。

貴協会には、引き続きのご支援・ご協力をお願いするとともに、益々のご発展を心より祈念申し上げます。



文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 鳴川 哲也

新年あけましておめでとうございます。

貴協会におかれましては、日頃より、理科教育の充実のためにご尽力いただき、心より感謝申し上げます。

さて、いよいよ今年、小学校学習指導要領が全面実施されます。小学校理科がこれまで大切にしてきた「子供の問題解決」を軸にして、資質・能力の育成を目指す理科の授業が展開され、理科好きの子供が育っていくことを心から願っております。

理科では直接体験を重視しています。自然の事物・現象に直接働きかけ、そこから解決したい問題を見いだしたり、自然の素晴らしさに感動したりすることが大切です。また、日々の授業において、子供が自分なりの予想や仮説を解決する際に、どのような方法で解決していけばよいかを考え、自分たちで実験方法を発想することも大切です。このように、自分たちで問題解決をしていくためには、観察、実験の器具や機器などがとても重要になります。

授業を行う教師の立場のみならず、子供の立場からも、どのような器具や機器が必要なのかを考えることが大切です。そのためにも、貴協会には引き続きのご支援・ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴協会の益々のご発展を祈念いたします。



文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 野内 頼一

新年あけましておめでとうございます。貴協会におかれましては、平素より理科教育の充実のためにご尽力いただき、心より感謝申し上げます。

令和2年度は小学校において新学習指導要領が実施される年となりました。変化が激しく予測が難しいこれからの社会において、児童・生徒にどのような力を育てていこうか、一人一人が考え最適解を探っていく必要があると思います。それは今までの教育を否定することではなく、時代にあわせて変化させていくことだと考えます。つまり、変えてはいけないことと変えなくてはならないことを見極め、今までの



謹 賀 新 年

一般社団法人日本理科教育学会 会長/神戸大学 教授 稲垣 成哲

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、本学会への厚いご支援をいただき、第69回全国大会（静岡大学）を開催することができました。心より御礼申し上げます。

さて、次年度より小学校では、新学習指導要領が実施となります。新しく改訂された教科目標・内容のもと、これまで以上に観察、実験が重視された授業が展開されることとなります。本学会といたしましても、日本の理科教育のより一層の発展に貢献できますように学会活動の充実を図りたいと考えております。なお、本年も8月22日（土）から23日（日）の2日間、岡山大学において第70回全国大会の開催を計画いたしております。昨年同様、日本理科教育振興協会の皆様からのご支援をお願いしますとともに、本年における貴会及び会員の皆様方の益々のご発展を祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。



日本理化学協会 会長/埼玉県立松山女子高等学校 校長 関 俊秀

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、全国理科教育大会・第90回日本理化学協会総会（高知大会）を始め、本協会の事業に多大なるご支援を賜り、ありがとうございました。「次世代を拓く理科教育」を大会主題として、全国の高校理科教育に関わる者が「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて実践発表や研究協議を行いました。新課程での「理数探究」や移行期間での「総合的な探究の時間」など、私たちが率先して取り組むべきことがあります。実験・実習や教育法の改善には、日本理科教育振興協会のご支援が不可欠です。本年も、8月5日～7日に、全国理科教育大会・第91回日本理化学協会総会を熊本市において開催いたします。引き続き、ご支援をお願い申し上げますとともに、貴協会及び会員の皆様方の益々のご発展を祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。



全国中学校理科教育研究会 会長 町田市立町田第一中学校長 花田 英樹

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、第66回全国中学校理科教育研究会秋田大会をはじめ、全国の中学校の理科教育の充実・発展のために多大なるご支援とご協力をいただきましたことに改めて感謝申し上げます。

さて、約1年後には、新学習指導要領の全面实施を控えた今、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善が強く求められています。特に習得・活用・探究の過程を通した深い学びを実現するためには、今まで以上に「観察・実験」の充実が不可欠であり、そのためには日本理科教育振興協会の皆様のご支援が必要であります。

本年も重ねて本会の活動及び中学校理科教育に対するご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに、貴協会及び会員の皆様方の益々のご発展をご祈念申し上げまして年頭のご挨拶とさせていただきます。



全国小学校理科研究協議会 会長 森内 昌也

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、本会の活動に対しまして格段のご支援、ご協力をいただきました。大久保 昇会長をはじめとする公益社団法人日本理科教育振興協会の皆様のお力を受けまして、第52回全国小学校理科研究協議会研究大会岐阜大会を盛大に開催することができました。改めまして厚く御礼申し上げます。

新年ご挨拶の後には、小学校においては時をおかずに、新学習指導要領の全面实施を迎えます。グローバル社会が一層加速し、厳しい挑戦の時代に対峙していく子供たちの資質・能力の育成が、理科教育にも求められています。本会はこうした要請に応えるため、令和2年も新学習指導要領を具現化した理科授業を提案してまいります。その際の根幹を成すのが、問題解決の学習における観察・実験です。

理科授業における観察・実験の充実、貴会、日本理科教育振興協会の原点でもあります。令和2年も変わらず貴会と共に本会も、同じ「志」をもって子供自らの観察・実験を保障する理科授業の実践に取り組みます。

本年も相変わらぬご支援並びにご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



日本理科教育学会第69回全国大会を終えて



日本理科教育学会第69回全国大会を終えて

一般社団法人日本理科教育学会 会長 稲垣 成哲

本年度の日本理科教育学会第69回全国大会（静岡大会）は、9月22日（日）から23日（月・祝）の2日間、静岡大学静岡キャンパス（熊野善介実行委員長）を会場として開催されました。「Society 5.0に応える理科教育の創造」との大会テーマのもと、1100名弱の参加者がありました。研究発表件数は、一般研究発表と課題研究発表を合わせて438件、ポスター発表37件、ワークショップ9件、中高生のポスター発表14件があり、熱心な議論が展開されました。基調講演は、Gillian Roehrig, Ph.D（全米科学教師教育学会（ASTE）前会長、ミネソタ大学STEM教育センター教授）による「アメリカの科学教育改革の理論と実践：STEM教育改革」でした。また、2つのシンポジウム「Society5.0と新学習指導要領」「アジア諸国におけるSociety5.0に応える科学教育改革」が実施され、特に後者では、東アジア科学教育学会とのジョイント企画として、国際的な観点からの話題提供がなされました。今回、静岡大会実行委員会の御尽力により、東アジア科学教育学会秋の学校とのジョイントセッションが実現し、各大学の留学生を含めると、全体で50名を越える外国人の参加者を得たことは本大会を特徴付けることであったといえるでしょう。次回の岡山大会は、2020年8月22日（土）から23日（日）に、岡山大学津島キャンパスで開催する予定です。本年度と同様に、一般研究、課題研究、記念講演及びシンポジウム等を計画しております。

最後になりましたが、日本理科教育振興協会による本学会への厚いご支援に対して心より感謝申し上げます。

全小理全国大会を終えて



第52回 全国小学校理科研究協議会 研究大会 岐阜大会 を終えて

全国小学校理科研究協議会 会長 森内 昌也

11月7日、8日に全小理岐阜大会を岐阜県岐阜市・瑞穂市で開催いたしました。今回の岐阜大会は、岐阜県における初めての開催となりました。岐阜大会では、研究主題を「理科の見方・考え方を意識的に働かせ、自然を追究する理科学習」～問題を科学的に解決するための資質・能力の育成を目指して～とし、岐阜県小中学校教育研究会小学校理科部会並びに岐阜県小学校理科研究会が主体となり、研究を進めてきました。

大会初日の研究全体会では、文部科学省教科調査官 鳴川 哲也先生に指導講評をしていただきました。記念講演には、東京大学宇宙線研究所神岡宇宙素粒子研究施設長 スーパーカミオカンデグループ代表者 中畑 雅行教授にご講演をいただきました。岐阜県が世界に誇る最先端科学技術であるスーパーカミオカンデについて学びました。

大会2日目は、岐阜市立長良西小学校、岐阜市立柳津小学校、瑞穂市立牛牧小学校の三校が、各校の特色を打ち出した研究実践を発表しました。また、学年別分科会として本会の属する各都道府県の理科教育実践も発表しました。小学校における新学習指導要領の全面実施に向けて、貴重な研究実践を示すことができたと思っています。

本大会を開催するにあたり、公益社団法人 日本理科教育振興協会様には、今回もまた開発教材コンテストをはじめ、多大なるご支援をいただきました。心から感謝申し上げます。

第7回科学の甲子園ジュニア が開催されました

令和元年12月6日（金）から12月8日（日）まで、つくば国際会議場において、『第7回 科学の甲子園ジュニア全国大会』が開催されました。大会の選考には、28,000名を超える中学生がエントリーし、各都道府県から選抜された47チームが、理科や数学に関する筆記試験・実技試験に挑戦しました。

本大会も、理振協会は後援・協賛し、総合成績第5位の愛媛県代表チームに【日本理科教育振興協会賞】を授与しました。

『第7回 科学の甲子園ジュニア全国大会』成績一覧



総合成績 第1位	文部科学大臣賞	愛知県チーム
第2位	科学技術振興機構理事長賞 トヨタ賞	千葉県チーム
第3位	茨城県知事賞 常陽銀行賞	香川県チーム
第4位	つくば市長賞 筑波銀行賞	宮崎県チーム
第5位	日本理科教育振興協会賞	愛媛県チーム
筆記競技第2位	内田洋行賞	奈良県チーム
実技競技2第2位	ケニス賞	長崎県チーム
企業特別	SHIMADZU賞	兵庫県チーム
企業特別	ナリカ賞	富山県チーム
企業特別	ヤガミ賞	宮崎県チーム

令和2年度 理科教育予算増に向けた活動

《文部科学省への要望活動》

令和元年12月に文部科学省の関連各部署を訪問して、令和2年度理科教育予算増の要望書を提出いたしました。

要望内容

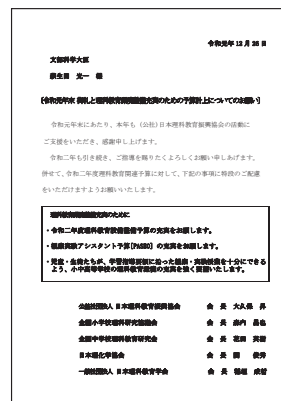
- 令和2年度理科教育予算の増額、理科観察実験支援員の予算増、理科教育環境の充実



文部科学事務次官藤原誠様を囲んで



初等中等教育局長丸山洋司様を囲んで



令和2年度政府予算案が発表されました

- 理科教育設備整備費等補助（理振予算） 17.2億円（令和元年度予算 17.2億円）
- 理科教育における観察・実験支援事業（理科実験支援員） 2.0億円（令和元年度予算 2.0億円）

関連予算

- スーパーサイエンスハイスクール支援事業 22.2億円（令和元年度予算 22.2億円）

※先進的な理数教育を実施する高等学校を「スーパーサイエンスハイスクール」に指定し、学習指導要領によらないカリキュラムの開発・実践や課題研究の推進、科学技術系人材の育成等の支援を行う事業です。

令和元年度 理科教育設備整備費等補助金事業・台帳説明会開催

開催地	実施日	講師	参加者
高松会場 サンポートホール高松	10月7日（月）	文部科学省初等中等教育局教育課程課 視学官 藤枝 秀樹 氏	学校法人:5、教育委員会:5 計10名
東京会場 中央大学 駿河台記念館	10月10日（木）	文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 野内 頼一 氏	学校法人:31、教育委員会:17 計48名
名古屋会場 安保ホール	10月24日（木）	文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 遠山 一郎 氏	学校法人:10、教育委員会:8 計22名

説明会は、平成28年から本年までのべ48会場で開催いたしました。

これまで累計で学校法人904校、都道府県市区町村自治体475自治体、累計参加者 2,273名 が受講されました。

令和2年度の小学校から、国庫補助対象品目・理科教育等設備台帳が変わります。教委・学校が円滑に実施できるよう、支援させていただきます。



10/7 高松会場 藤枝 視学官

令和元年度 理科教育設備整備費等補助金事業取組のための個別相談会開催

理科教育設備整備費等補助金事業取組のための個別相談会を東京・大阪・福岡の3会場にて開催いたしました。3会場で19の自治体・学校法人のご担当者様が来場され、事業実施に向けての補助金および台帳作成等について、ご説明させていただきました。



開催地・実施日

福岡会場 国際会議場
11月14日(木)
東京会場 中央大学駿河台記念館
11月19日(火)
大阪会場 大阪マーチャングाइズ・マートビル(OMMビル)
11月28日(木)

理振協会では、都道府県・市区町村単位での「理科教育設備整備費等補助金事業・理科教育等設備台帳」に関する研修支援をさせていただきます。

研修のご要望等がありましたら、理振協会事務局までお問い合わせください。

安心安全ドキュメントが揃いました

観察・実験において事故が無いように、正しい観察実験機器の使い方や、実験の注意点を示したドキュメントです。

ホームページにアップしましたのでダウンロードしてご利用ください。また既刊のドキュメントも多数アップしております。ご活用いただけますようお願いいたします。



- 簡易霧箱の正しい使い方
- 水とエタノールの蒸留実験の注意点
- ダニエル電池実験の注意点
- 環境にやさしい実験
- 真空ポンプの正しい使い方

**令和元年度 東日本大震災復興教育支援事業**

本年も東北被災地にて小学校を対象に理科実験支援事業を実施いたしました。教科書の実験を中心に、理振協会幹事企業が、各社ともに、最新の実験機器を持ち込んで実施いたしました。

昨年に続き被災地の児童たちに、喜びや感動を与える理科実験授業に努めました。

実施期間：9月～12月

実施地区：南相馬市 1校 いわき市 6校 石巻市 3校 陸前高田市 1校
大船渡市 1校 釜石市 1校 山田町 1校
7自治体 14校 37クラス 児童数 775名

当事業開始の平成23年から累計で213校、32,485名の児童たちと実験をしました。

令和元年度 復興支援事業報告会開催予定

本年度も事業の締めくくりとして、報告会を開催する予定です。

実施企業からの報告と、教育有識者からの授業の振り返りを頂き、来場者全員で理科実験授業について考える会です。

■ 開催日：令和2年2月15日(土)

■ 場所：(株)内田洋行 新川本社ビル ユビキタス協創広場CANVAS 2階
東北被災地より教育関係者をお呼びして、お話をいただく予定です。

訃報案内

去る8月5日、理振協会の理事にご就任頂いてましたチバビジネス株式会社 阿部吉夫様が御逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

離れていてもピントが合う! 染色液が付きません!

ケニス長焦点生物顕微鏡 JLS-D

NEW

5年保証

長焦点のプランレンズに加えて、調光装置付LED光源と粗動・微動ハンドルを採用。

その差は一目瞭然!



一般的な対物レンズ
(作動距離 0.5mm)



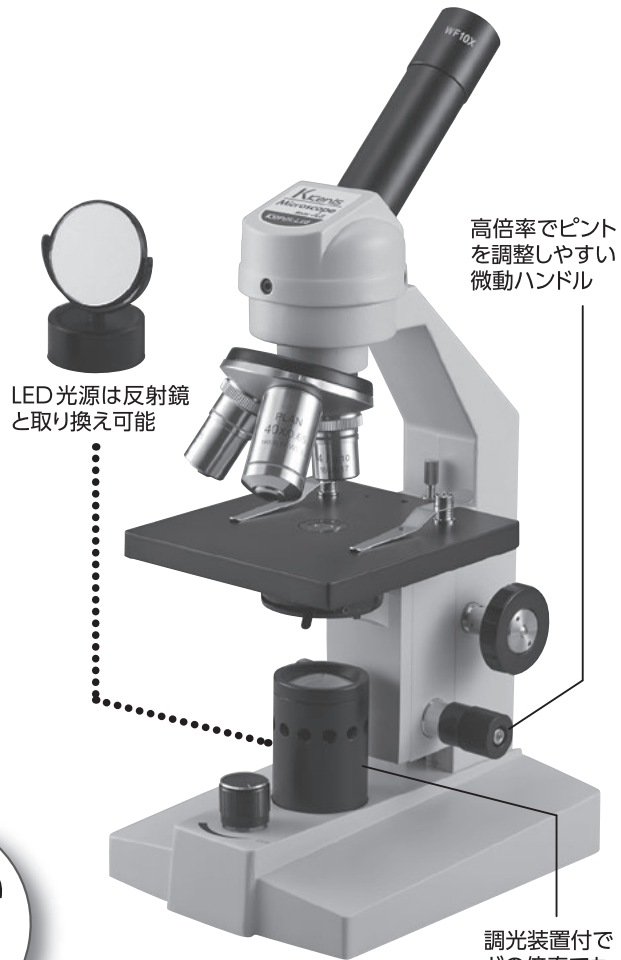
長焦点対物レンズ
(作動距離 3.2mm)

作動距離 (=ピントの合う距離) が従来品よりもはるかに離れているから…



割らない
付かない
安心感!

- カバーガラスを割らない
- 染色液が付かない
- ピントを合わせやすい



収納箱付

収納箱なし

コード	1-148-0900	1-148-0901	1-148-0905	1-148-0906
型式	JLS-D400	JLS-D600	JLS-D400-CN	JLS-D600-CN
総倍率	40~400×	40~600×	40~400×	40~600×
対物レンズ	DIN規格 4× 10× PlanLD40× (長焦点 WD:3.2mm)			
照明装置	平面・凹面鏡/ 高輝度LED光源装置 (充電式単3ニッケル水素電池×3) 調光装置付			
価格	¥45,000 (+税)	¥50,000 (+税)	¥38,000 (+税)	¥43,000 (+税)

発見、ときめき! 理科学機器のケニスです。
ケニス株式会社
<http://www.kenis.co.jp>

- 本社 大阪市北区天満2丁目7-28 Tel.(06)4800-0721
- 東京支社 東京都江東区佐賀1丁目2-8 Tel.(03)3630-8121
- 福岡支店 福岡市博多区東比恵3丁目16-3 Tel.(092)473-6600
- 広島支店 Tel.(082)537-2511 ●仙台営業所 Tel.(022)302-5460
- 札幌営業所 Tel.(011)746-1061